

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される家庭系ごみ（可燃、その他の紙、雑がみ）、事業所などから排出される事業系ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

2. 調査実施内容

① 家庭系その他の紙

【実施日】 平成30年9月26日（水）

【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）

【季節】 春・夏・秋・冬

【採取量】 201.0kg

【気温（平均）】 15.8℃

3. 調査手順

（1）試料の回収

① 家庭系その他の紙

中間処理施設へ持ち込まれた資源物を施設担当職員の誘導のもと、指定の場所に搬入する。

（2）分類及び重量の記録

搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

第2章 調査結果

① 家庭系その他の紙

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

割合が高かったものは「雑がみとして処理可能な「その他の紙」その他の紙/紙製以外（リサイクル可）」（77.5%）、「雑がみ（リサイクル可）」（6.7%）、「雑紙として処理可能な「その他の紙」その他の紙/紙製（リサイクル可）」（6.3%）の3種で、全体の90.5%を占めていた。

概ね適正に分別され排出されていたが、「紙パック（リサイクル可）」（2.6%）、「段ボール（リサイクル可）」（2.2%）が混在していた。

